

ふれあい

平成23年 7月 第301号
大代地区コミュニティ推進協議会
(広 報 部)
事務局 : 大代地区公民館
TEL 080-5064-9319

掲載目次

●想定外 1	●公助・共助・自助 3
●震災で対応した東区からの報告 1	●仙塩浄化センターの現況 3
●災害復旧ボランティアの方々に感謝 2	●「大震災!その時」 5
●災害から大代地区の復旧を 2	●大代地区公民館からのお知らせ 5

想定外

大代地区コミュニティ推進協議会

会長 熱海 五郎

三月十一日は、大変な一日でした。東日本大震災及び大津波に直撃されてしまいました。当日は家にいましたが、想定外で壁、天井が落ち、食器、物入れ、電化製品の倒壊で大変でしたが自分の屋敷までは津波が到達しませんでした。

当地区においては、年一回の防災訓練を行い、全世帯に参加するよう指導してきましたが、関心度が低迷していました。それ故、今回の大震災は大パニックでした。避難地を東小学校、大代南区集会所とし、各家庭を回り確認行動を行うとともに集会所及び防災倉庫を開放して炊き出しを行いました。そして避難地で夕食の手伝い、夜は集会所に避難者と一緒に泊まりました。多賀城市では住民の方が多数災害に遭われ亡くなられました。海岸に接していない市民が . . . と思っています。自分なりに考えてみますと車両で避難した方、自宅に戻った人が犠牲になったように思われます。また、多賀城市の防災広報装置も機能しませんでした。今後の防災訓練のあり方を最初から見直して行動したいと思っております。

最後に、大代コミュニティ推進協議会の報告及び総会は後日と思っておりますので地区住民の方々頑張ってください。

震災で対応した東区からの報告

大代東町内会長 三浦 徳男

罹災された方に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧をお祈り致します。今回の震災において東区の自主防災組織を中心に対応した内容について報告したいと思います。

東区においては、床上浸水が四件、そのほか瓦やブロックの破損がありました。幸いにも人的被害がなく安堵したところでした。当日午後二時四十分、近くで小学校の下校児を見守っていた顧問の方が集会所の近くに居たこともあり、即座に集会所を開放し自主防災組織会規約に基づいて災害対策本部の設置をしました。その後は、集会所を避難所として住民の方々が避難され集会所は入れない程になり、年配の方を優先として他は学校に誘導し、また車で送るなどの対応をしました。集会所は、幸い灯油の買い置きとプロパンガスが使えました。長時間になるだろう一時避難所としての最初の相談は、皆さんに食糧等の持ちよりの協力をお願いしました。米、灯油、野菜、飲み物等の協力をいただきました。日程の食糧の確保ができたことで安心しました。一時避難所は、三月二十一日までの十一日間、罹災した方も入れて延べ四七〇名が宿泊された。罹災した方が少なく東小学校の避難所に避難された方は、長い方で四日程ではなかったかと思えます。給水車と物資の配給をいち早くお願いし、十二分に恩恵を受けました。また、民生委員の指示により高齢者で一人住まいの方、買い物のできない方など不自由して

いる方への物資の配付を行いました。その後、学校や地区公民館での物資配付を（四月二十日まで）協力するために役員以外にボランティアを募ったところ学生三名（内女性二名）と一般の方二名、計五名の方の協力を得ました。休まず最後までシフトに入って頂きました。感謝と御礼を申し上げます。

振り返って、自主防災会の会長と町内会長を別にしていただくことでそれぞれの仕事の分担、役割ができました。一時避難所では朝と夕方、役員の方々と今日の反省と明日の準備を相談し、皆さんに考えを伝え理解して頂いた。また、昨年購入したトランシーバーが巡回や緊急時に十分に活用できたことがよかったと思われま。反省と検討を要する点は、防災報の故障により情報が入らず苦慮しました。また、ガソリン不足のために巡回、物資配付や市役所等への連絡に苦勞したことで備蓄のあり方の再検討が必要と思われま。

なお、一ヶ月遅れて五月八日には二十三年度の総会を開催し役員改選を含め原案どおり承認を受けました。その後には班長会議を終了したところです。

災害復旧ボランティアの方々に感謝

大代西町内会長 伊藤 要

去る三月十一日に発生した巨大地震、大津波による被害が広範囲に亘り甚大な被害をもたらした東日本大震災、その日から多くの方々が避難所生活を余儀なくされ、現在はある程度復旧は進みつつありますが、完全復旧までは気の遠くなるような日々を

要するものと思われま。

大代西集会所である大代老人憩いの家も流されてきた車等でガラス等が壊れ、油が混じった海水が流入し、畳・内壁・建具・備品等も散々な状況となりました。土砂同様となった畳等の除去に苦慮していたところ、塩釜聖書バプテスト協会十数名の方々にご協力を頂き、室内の汚泥の除去と使用不能となった畳・備品等を一時保管場所まで持ち出しをしていただきました。後日、多賀城市社会福祉協議会のボランティアセンターからも数十名の方が数日におたり外壁に付着した油、屋内の建具・柱・ガラス戸・机等に付着した油の除去と拭き掃除、そして近隣の側溝掃除も合わせてお手伝い頂きました。

未曾有の大震災の復旧に多くのボランティアの方々にご協力を頂き、衷心より厚く感謝を申し上げます。被災された皆様に、一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

災害から大代地区の復旧を

大代中区町内会長 小野 菊郎

この度の大震災に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

ふれあいの発行は、大代地区のコミュニティ再構築のスタートです。感謝申し上げます。自然災害は歴史のページに過ぎず地球の営みの一瞬でしかありません。瓦礫の無い道路は何事も無かった様に静まり返り映画のラストシーンを見る思いがします。内部では津波の恐怖を思い出させ唯々虚しさが

募ります。避難所生活を一ヶ月致しましたが、各方面から救援物資の提供、炊き出し、医療関係者の巡回、職員の献身的な奉仕活動、避難者自らトイレの掃除、水汲み、館内掃除、物資の搬入・配付の手伝い等積極的に活動を実践しました。その中で得られたことは住民の絆を深めたことでした。これからも続くであろう厳しい生活の中で共助が生かされてくるものと確信いたします。中区町内会の事業活動を今年中止致します。二十三年度の町内会費は、徴収せず二十二年度繰越金で賄う予算を計画いたしました。中区の津波被害世帯は、一八四世帯（全世帯比四十三％）、自宅以外居住世帯は一五八世帯（全世帯比三十七％）、損害額は十三億円を超えます。被災者は現状復帰に日夜努力をされておりますが、長期になることは必至であります。

私たちは、この災害から何を学び何を後世に引き継がなければならないのでしょうか。

自主防災組織の機能確認と実践的訓練、日常生活の中で活動する共助精神高揚等町内会事業の見直しを図り立て直しが急務です。しかし、精神的に受けた打撃の大きさを立ち直るにはもう少し時間が必要ですが、一日も早く現状を復旧すべく努力してまいります。

五月二十六日菊地市長との懇談会で①公民館の早期再開（大代地区コミュニティ推進協議会活動の拠点）②仙塩流域下水処理センター臭気問題（水道料金の内下水道の減免）③貞山堀違法繋留プレジャーボートの一掃（中区へ十七艘打ち上げられた）を意見提出しました。以上三点は、大代地区の社会的

価値が下落、即人口の流出に繋がり経済活動が低下すると予想されるからです。特に②臭気問題は復旧予定期日を四ヶ月後の平成二十六年三月とセンターでは表明しております。臭気の不快感を終日(一二〇〇日 二八八〇〇時間)受けることになり、下水処理センターでは、今年中に説明会を開催します。皆様多数出席されてご意見をお述べ下さい。菊地市長の回答は、①復旧時期は不明(国の災害査定終了後)②四月、五月水道料金を減免③不法繋留されない対策を事前に講じるよう宮城県へ働きかけ、でした。

再度②について懸念されることがあります。貞山堀に放流されている汚水は外洋へ出ず仙台港と塩釜港間を往復し沈殿物が堆積します。下水処理センターの機能が回復した後も臭気発生源の解消にはなりません。対策はどのように考えているのか確認する必要があります。汚泥は、川底に残り臭気の発生は止まりません。皆様是非お考え下さい。

公助・共助・自助

大代南区町内会長 橋本 浩

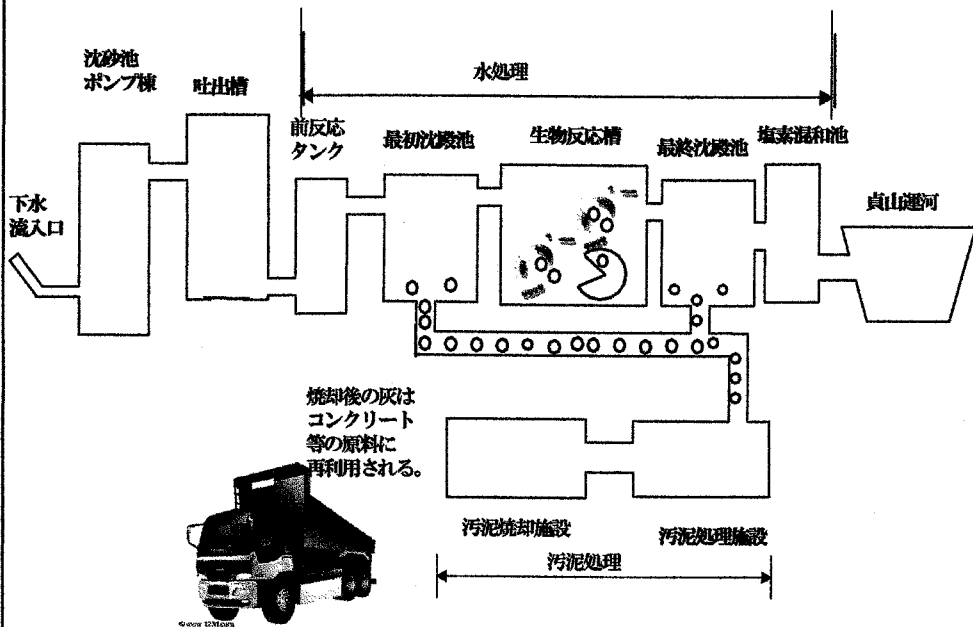
この度の東日本大震災で被災されました、皆様にご丁寧にお見舞い申し上げます。今でも三月十一日のことを思い出すと心が痛みます。そして、隣近所の助け合いが一番大切なことも分かりました。何日間も共に集会所に寝泊まりして町内会のために「力」になってくれました。多くの皆様や関係機関の方々に心から感謝申し上げます。

町内でも地震、津波で被害に遭われた方々が一日も早く元の生活に戻れます様に微力ながら「力」になりたいと思います。

仙塩浄化センターの現況

大代北区長 加藤 渉

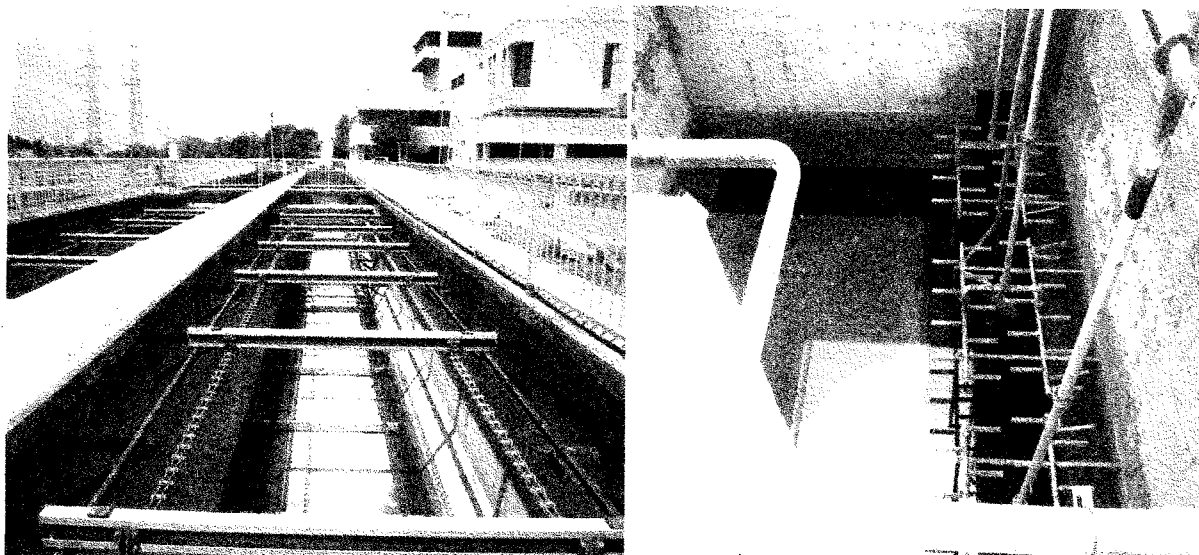
耐えがたい臭気や、放流される貞山運河の水質の悪化、施設のどこがどのようになってしまったのかを知りたく、仙塩浄化センターに聞きにいった。



左上図は、下水の流入口から貞山運河に放流されるまでの設備と働きを解説用に書いた概略図だ。正常なれば、下水流入口より入った汚水は、沈砂池ポンプ棟で砂や大きいごみが除去される。汚水はポンプで汲み上げ、最初沈殿池に送られ細かなゴミを沈殿させ、生物反応槽へ送られ、微生物に浮遊している汚れを食べてもらって、最終沈殿池に送られ、重くなつた微生物(汚れ)を沈殿させ、きれいになった上澄み水を塩素混合池に送り、消毒して貞山運河に流される。最初沈殿池と最終沈殿池で分離された汚泥は汚泥処理施設に送られ、脱水してから焼却施設で焼却される。

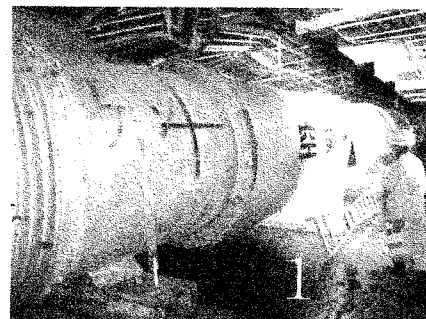
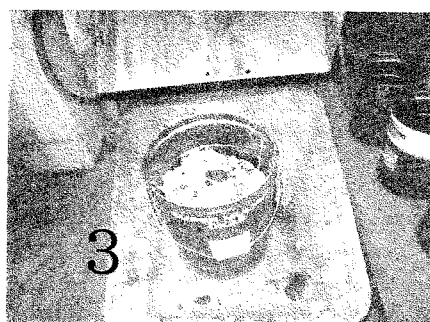
今回の3・11の津波による浸水被害で、地上約2メートル以下の電動機器が塩水に浸かり、全ての機能を失つたため、処理能力が皆無となった。水処理施設には津波で運ばれてきた土砂が大量に入り、今、懸命に土砂の撤去などで回復を急いでいる。6月14日現在(取材当日)の現況は、沈砂池で大きなゴミを取り除き、水処理施設で細かいゴミを沈降させ塩素で殺菌した処理水を貞山運河に放流しているとのことであった。つまり、本来は汚水ポンプで汲み上げた汚水を最初沈殿池に送り次に生物反応槽に送って微生物処理を行い最終沈殿池で透明度のある上澄み水を塩素混合池で消毒して放流される。沈殿した汚泥は汚泥処理施設で脱水し、焼却される。現在は、微生物による生物処理、汚泥の焼却処理の作業が抜けている。7月に一部の機能を仮設で起動する予定で、多少なりとも臭気の減少や水質の改善に繋がっていくのではないかと説明した。

だ、汚泥処理施設や焼却施設のダメージが大きく全力で復旧にあたっているとのことだった。貞山運河については、汝沫するとすれば河川の管理者が汝沫し土砂は埋め立て処分場に搬送することになる。



写真上 津波による砂の挿入から廃土清掃し、使用準備中の汚泥かき集め機と生物反応槽

写真 1 地下2階にある送風機 微生物の助長に欠かせない酸素の供給元、浸水した水に浮力が働き基礎の破壊により固定出来ない状態 2 地下にある送水等の調整パイプ及び、配線ラダー（線が乗っている架台）やはり素人が見ても、損傷箇所が一目で解る。 3 下水の中に含まれる下水以外の異物（布切れやふきん、食器、スプーン）は、入れないで下さい。とのことだった 4 ことごとく寸断される管理用道路施設や設置物。もうちょっと辛抱しよう。そのうち花の匂いに変わるかも。



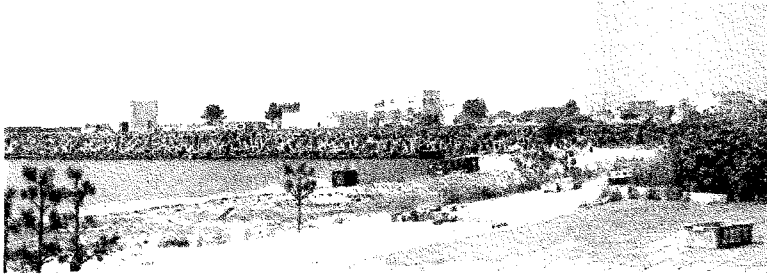
今回の地震

太平洋プレート（岩板）が、東北地方を乗せた北米プレートの下に潜り込むことよって起きた「海溝型地震」だ。政府の地震調査委員会では、宮城県沖、三陸沖南部、福島県沖で起こる海溝型地震については、マグニチュード（M）7.5規模を想定していた。しかし、今回の地震の規模はM8.8（9）と想定を大きく上回った。東京大学地震研究所の古村孝志教授は「M8.8は、想定されていたM7.5のエネルギーの約90倍に当たる。1707年の宝永地震（M8.6）の2倍で、国内では最大級だ」と指摘。プレート境界面が南北200〜300キロメートル、東西100〜150キロメートルにわたり、十数メートルずれたと想定される」と説明する。気象庁でも、地震によって、岩手県から茨城県に至る南北400キロ、東西200キロの断層帯が破壊された可能性が高いとみている。想定を上回る規模となったことについては、複数の震源域が連動して想定を超える巨大地震になった可能性がある。東北地方の太平洋プレートは年間約8〜10センチの速度で陸側へ移動しており、沖合約200キロにある日本海溝から、陸側の北米プレートの下へ沈み込む。2つのプレート境界に蓄積されたひずみが限界に達すると、境界部分が壊れて大地震が起きる。今回の地震もこの仕組みで発生し、メカニズムは地盤が東西に圧縮される逆断層型だったと解説している。又、平均周期3.7、1年の宮城県沖地震は0になったのではとの問いに、宮城県沖の震源域で今後、30年余りに起きる可能性は0とはいえないと予知連は言っている。

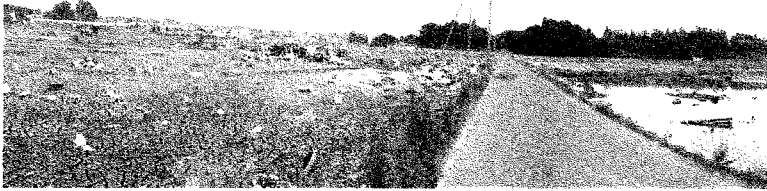
いずれ物損であきたらず人の心損まで受けて
まっとうな、働き者はいらない。

反省と対策

今回の地震は14時46分と、明るいの内の出来ごとだったので避難は容易であった。避難勧告や避難誘導等の無理な時間、夜間や早朝に起きた場合には、被害がもっと大きかったと思う。日中でさえこのような結果だ、確証のない支援に期待する方が無理。やはり地区の組織が稼働出来るような訓練、施設設備の再検討、地区内でできる食糧、燃料、などの備蓄、行政に頼らなくとも最小限、区民が生活出来るような程度の備蓄は必要だ。それと、不屈の奉仕精神も必須である。



仙台港コンテナヤードから流れ着き松ヶ浜海水浴場に居座っているコンテナ



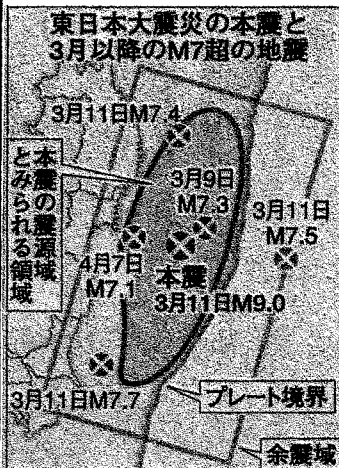
汐見台周辺に、いまだ回収されていない家、車、家具、つらい思い出、津波以前の夢が散乱している。一日も早く安堵の地に復元したい。

「大震災！その時・・・」

大代地区公民館長 角田 三雄

三月十一日午後二時四十六分は、明日から始まる「公民館まつり」の準備の最中で数十人が展示作品を飾り付ける作業中でした。今思っても只ならぬ揺れの大きさであったことが蘇ってきます。何か化け物のようなものが蒸気機関車の如くド！ド！ド！とうなりを上げて迫ってくるような感じがしました。館内では、準備していた人達の悲鳴があちこちで聞こえました。私は、十数人の方と一階ロビーで腰を低くして揺れが収まるのをじっと我慢して待ちました。揺れが収まり落ち着いた時に、公民館まつりどころではないと感じ館内にいる方を家に帰るよう指示しました。後になってある方から館長に「早く帰って下さい！」と言われてよかった、いい判断をしてくれたと感謝されました。

その後、大津波が貞山堀の堤防を破壊し公民館に浸水被害をもたらしたことを考えると「準備していた方を待機させていたら・・・」と思うと今でもソツとします。



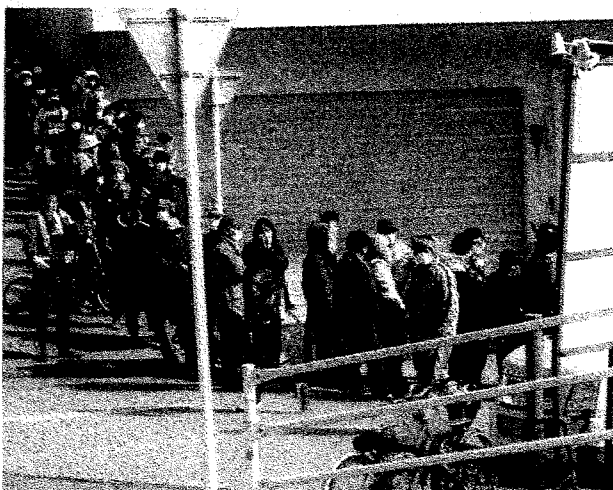
大代地区公民館からのお知らせ

大代地区公民館は、東日本大震災の影響により、六月二十二日現在開館ができていない状況にあり、開館の見通しもたつていません。皆様には大変ご不便をおかけしておりますが、ご理解の程よろしくお願ひします。なお、二階視聴覚室を復興支援室として会議等に限り、日中のみ貸し出してあります。ご利用を希望の方は、大代地区公民館までご連絡ください。

大代地区公民館

TEL 080-5064-9319

※大代地区公民館の固定電話が不通のため、こちらの番号までお問い合わせ下さい。



震災後、大代生協に並ぶ住民達の行列